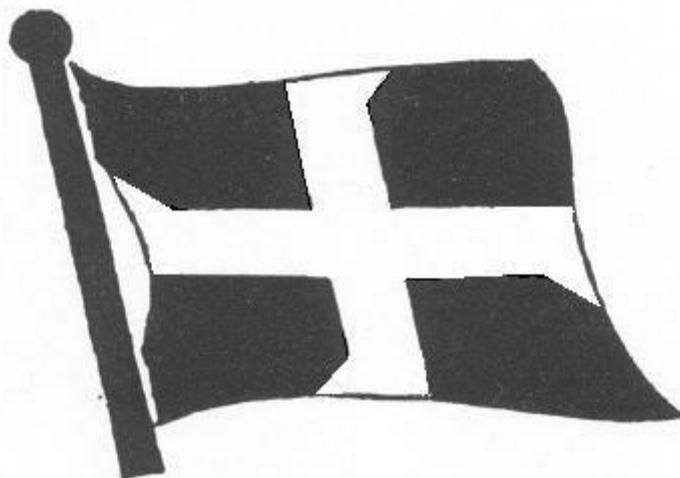


# 蒼穹 NEWS

No.5

七大戦・同志社戦総括号

令和4(2022)年 8月25日発行



—目次—

- ①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶
- ②七大戦結果
- ③七大戦各競技総括
- ④同志社戦結果
- ⑤その他ご報告

## ①主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

### 《主将挨拶》

去る7月30日31日に仙台市陸上競技場にて三年ぶりに七大学そろっての七大学戦が開催されました。男女総合優勝を目指しましたが、男子総合3位、女子総合2位という結果になりました。

男子は短距離種目をはじめとして事前ランキングを返しての決勝進出や得点などがありましたが、名古屋大学と大阪大学には及びませんでした。下回生を中心にランキングを返し、京大としては力を出すことができているとは思いますが、選手一人一人の力、そして選手層の厚さで優勝した名古屋大学と大きな差があったと感じます。

女子については女子主将小西を中心に事前ランキングを多くの種目で返し、最終種目のリレーまで総合優勝を争う戦いをすることができました。目標としていた総合優勝には届きませんでした。女子黄金時代の始まりを感じさせる内容になりました。

チームはこれから同志社戦を経て東大戦へと向かいます。東大戦での目標は男女総合優勝です。今回達成できなかった男女総合優勝の目標を達成して、チーム全員で心から喜べるように精進してまいります。

蒼穹会の皆様には仙台という遠方でありながらも多くの方に現地で応援していただきました。このような状況でも、変わらない熱いご声援に心から感謝申し上げます。東大戦、そして来年以降に向けて今後とも変わらぬご支援ご声援のほどよろしく願いいたします。

京都大学陸上競技部主将 眞鍋 聡志

### 《女子主将挨拶》

七大学戦の結果は男子総合3位、女子総合2位と、目標であった男女総合優勝には届きませんでした。特に女子について述べると、目標こそ達成できなかったものの、優勝した名古屋大学とは2点差というところまで迫ることができました。得点の内訳を見ても、フィールド種目がもともと持っていた点+ $\alpha$ を取れていたことに加え、トラック種目がランキングを返して得点してくれたことは高く評価して良いと思います。3000mに出場した石原(1)は受験のブランクもある中しっかり練習を積み、大学初試合でよく勝負してくれました。100mに出場した三好(3)は今季好調であったのもそうですが、普段から非常に良い雰囲気を作ってチーム全体に良い影響を与えてくれていました。OPに出場した京女生や院生も含め、どの種目においても多くの女子選手が出場しチームを盛り上げ、次につながる経験をしてくれたことと思います。

私たちの代で挑む対校戦は東大戦を残すのみとなりました。そして今年是对校戦扱いにはなりません。京女生との合同チームという形で念願の関西学生女子駅伝に出場させていただきます。どちらも結果はもちろんですが、メンバー選考の過程や試合内容にこだわり、全ての部員が心から楽しんで勝負できる舞台にしたいと思います。

最後になりましたが、コロナ感染状況が悪化する中、遠方での開催であったにも関わらず、多くの蒼穹会の皆様に現地で応援いただき、本当にありがとうございました。これからも良い結果をご報告できるよう精進いたしますので、今後とも変わらぬご声援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部女子主将 小西 菜月

## 《監督挨拶》

七大学戦が開催されました。七大学揃って試合が出来たことは実に3年ぶりで、従来のような七大学戦の開催に尽力してくださった方々には感謝申し上げます。1日目は涼しい天候で始まったものの、2日目には七大学らしい暑い日差しが照りつけるコンディションとなり、多種目出場の選手には難しい試合運びとなったことでしょう。

男子は名古屋大学の投擲勢や長距離勢の壁に立ち塞ぎ、3位という結果に終わりました。そんな中400mで藤浦(3)、岩本(2)、益田(2)の3名が決勝に残ったことや、長年怪我に悩まされていた吉田(4)が100mで逆転勝利と手に汗握る展開を見せてくれました。女子は2位となりましたが、最後の4×100mRまで優勝争いがかつれ込む接戦となりました。七大学が揃ったときに優勝争いに絡めたことは女子チームがレベルアップしていることの表れかと思えます。また、今回は京大から男女共に走高跳で大会新記録が誕生しました。山中(2)の2m22の跳躍は圧巻で、1ヶ月後の全日本インカレでの優勝に期待がかかります。小西(4)は1m72まで競い合うハイレベルな戦いを制し女子チームに大きな流れをもたらしました。

最後になりますが、東北まで多くの蒼穹会の方がお越し下さり、選手の勇姿を見せられたことを誠に嬉しく思います。いつも変わらぬ応援をしていただきありがとうございます。さらにレベルの高い競技模様を見せられるよう精進して参りますので、ご支援ご声援のほどよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部監督 長谷川 隼

②七大戦結果(得点)

第73回 全国七大学対校陸上競技大会

第33回 全国七大学対校女子陸上競技大会

令和4年7月30日(土)・31日(日)

宮城野原公園総合運動場弘進ゴムアスリートパーク仙台

(仙台市陸上競技場)

〈男子〉

種目	北海道大学	東北大学	東京大学	名古屋大学	京都大学	大阪大学	九州大学
100m				2	10	9	
200m				7	5	9	
400m		7	1		7	6	
800m	5	10	5		1		
1500m	7			3		6	5
5000m	4		2	10		5	
110mH	6	3	1	5		6	
400mH		12	1			2	6
3000mSC	5		5	11			
5000mW		2		15	1	3	
4×100mR		2	4	5	3	6	1
4×400mR		4	5	1	2	6	3
<b>トラック合計</b>	<b>27</b>	<b>40</b>	<b>24</b>	<b>59</b>	<b>29</b>	<b>58</b>	<b>15</b>
トラック順位	5	4	6	1	3	2	7
走高跳		7	2		11.5	0.5	
棒高跳	6	4.5			1.5	4.5	4.5
走幅跳		5		1	8	3	4
三段跳		4	2		11	1	3
砲丸投		2		12	6	1	
円盤投	1			14	4	2	
ハンマー投			2	15	4		
やり投	7			4		9	1
<b>フィールド合計</b>	<b>14</b>	<b>22.5</b>	<b>6</b>	<b>46</b>	<b>46</b>	<b>21</b>	<b>12.5</b>
フィールド順位	5	3	7	1	1	4	6
<b>総合得点</b>	<b>41</b>	<b>62.5</b>	<b>30</b>	<b>105</b>	<b>75</b>	<b>78.5</b>	<b>27.5</b>
<b>総合順位</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>7</b>

〈女子〉

種目	北海道大学	東北大学	東京大学	名古屋大学	京都大学	大阪大学	九州大学
100m		1		4	2		3
400m	3	6				1	
800m		2				4	4
3000m				3	2	4	1
100mH		2		5	3		
4×100mR		1		4		2	3
<b>トラック合計</b>	<b>3</b>	<b>12</b>	<b>0</b>	<b>16</b>	<b>7</b>	<b>11</b>	<b>11</b>
トラック順位	6	2	7	1	5	3	3
走高跳		1		5	4		
走幅跳	3	2		4			1
砲丸投		4			5	1	
やり投		2			7	1	
<b>フィールド合計</b>	<b>3</b>	<b>9</b>	<b>0</b>	<b>9</b>	<b>16</b>	<b>2</b>	<b>1</b>
フィールド順位	4	2	7	2	1	5	6
<b>総合得点</b>	<b>6</b>	<b>21</b>	<b>0</b>	<b>25</b>	<b>23</b>	<b>13</b>	<b>12</b>
<b>総合順位</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>5</b>

### ③七大戦各種目総括

#### ～短距離～

#### 男子 100m

[予選]

1組2着 山田慎之介(2) 10"94(-0.7)Q

2組7着 長田雅史(2) 11"38(+0.1)

3組1着 吉田悠樹(4) 10"93(-1.7)Q

男子 100m 予選には山田(2)、長田(2)、吉田(4)が出場した。1組を走った山田は最近不調が続いていたが落ち着いたレースをし、着順で決勝進出となる2着でゴールをした。2組を走った長田はランキングを覆す走りを期待されたが、スタートで遅れを取り7着でのゴールとなった。しかしSBを記録し、復調が期待できるレースを見せた。3組を走った吉田は余裕を持った走りで最後は力を緩めて1着でゴールした。(石原一)

[決勝]

1位 吉田悠樹(4) 10"95(-0.8)

3位 山田慎之介(2) 10"98(-0.8)

男子 100m 決勝には吉田(4)と山田(2)が出場した。吉田は既に200m、4×100mリレーにも出場しており疲労の蓄積や怪我が心配されたが、それらを全く感じさせない伸びのある走りで後半をリードし、見事七大戦100m決勝を制した。山田(2)は向かい風ながら予選、決勝で続けてシーズンベストに近いタイムで走りきり、ランキングを返して表彰台に登った。今シーズン10"64をマークしていた名古屋大の鳥居(4)がレース中に足を攣ったこともチャンスとなり、予想得点は7点であったが結果として10点を獲得し、京大短距離の意地を見せつけた。(岡田)

#### 男子 200m

[予選]

1組 2着 高橋昂生(1) 22"22(-1.6) Q

2組 4着 室和希(4) 22"66(-1.2)

3組 2着 吉田悠樹(4) 22"24(-3.4) Q

男子 200m 予選には高橋(1)、室(4)、吉田(4)が出場した。1組3レーンの高橋は序盤からスピードを

見せ中盤で先頭であったが続くレースの為に後半は流し2着となった。2組5レーンの室は後半のスピードを見せ4着となった。3組4レーンの吉田は100m地点で1位争いをしておりその後も粘り2着となった。全組を通して強い向かい風の中であったが素晴らしい走りを見せてくれた。(川崎)

[決勝]

3位 高橋昂生(1) 21.87(-1.5)

6位 吉田悠樹(4) 22.05(-1.5)

男子 200m 決勝には高橋(1)と吉田(4)が出場した。エントリーランキングはそれぞれ6位、5位であり、ランキングをくつがえしてより高い点数を取ることが期待された。高橋は良いスタートで1位と並ぶように直線に入ったが、150mをすぎたあたりで失速した。複数競技の中で体が悲鳴をあげた。吉田は4回生ながら大学初の200mであったが、6位と奮闘した。(石原一)

#### 男子 400m

[予選]

1組 2着 益田椋多(2) 49.88 Q

2組 2着 岩本翔太(2) 49.98 Q

3組 2着 藤浦敦士(3) 50.49

男子400mには益田(2)、岩本(2)、藤浦(3)が出場した。ランキングでは3人とも通過の当落線上にいるという状況だった。1組の益田は、内側の選手が前半飛ばしているなかで焦ることなく淡々と走り、最後まで崩れることなく2着でまとめた。2組の岩本は1つ外の選手と並ぶような形でレースを進め、伸びやかな走りを後半まで維持しつつ、横を確認する余裕を見せながら2着でゴールした。3組の藤浦は、短短ブロックで培ったスピードを武器にスタートからうまく加速し、最後まで粘って2着を確保した。3人全員がそれぞれ自分らしいレースを展開し、着順で決勝に進むことができた。(田淵)

[決勝]

3位 益田 椋多(2) 49.70

4位 岩本 翔太(2) 50.09

7位 藤浦 惇士(3) 51.40

男子 400m 決勝には益田(2)、岩本(2)、藤浦(3)が出場した。益田は 1 レーン外の選手が前半からスピードを出していく中でも冷静にレースを進め、200を過ぎたあたりから徐々に順位を上げていき3位入賞を果たした。岩本は前半から積極的なレースを展開し、内側の選手が迫ってくる中でも果敢に食らいついて行ったものの惜しくも入賞に届かず4位となった。藤浦は一番外の8レーンに配置された中で前半から積極的なレースを展開したものの、慣れない400mを走的过程中で予選の疲労が響き後半に失速し7位となった。(野田)

#### 男子 100mH

[予選]

1組 岩崎光起(3) DNS

2組 五十嵐聖(2) 15"98(+0.4)

3組 中村鮎夢(4) DNS

男子 110mH 予選には中村(4)岩崎(3)五十嵐(2)が出場予定であったが中村と岩崎の怪我のため、五十嵐のみ出場した。スタートから順調に7レーンの選手と競っていたが10台目でハードルにクラッシュ。7レーンの選手が 15"66 でフィニッシュしているためこれがなければ PB の 15"87 を大幅に更新できたと言える。今後の活躍に期待したい。(齋藤)

#### 男子 400mH

[予選]

1組 高橋昂生(1) DNS

2組 青柳佑 (1) 55.99 2着 Q

3組 金盛圭悟(2) 58.09 4着

男子400mH では高橋(1)、青柳(1)、金盛(2)が出場する予定であったが、多種目出場の消耗から高橋は欠場した。2組の青柳は前半を抑え気味に入って内側の選手にも先行されたが、焦ることなくハードル間を刻み、後半に追い上げるレース展開で最後は余裕をもって2着でゴールした。3組の金盛は前半から攻めたレース展開で外側の選手を追ったが、ハードリングが逆脚になった7台目ごろから段々と離され、

最後は4着でゴールした。(田淵)

[決勝]

8位 青柳佑(1) 56.80

男子400mH決勝には青柳(1)が出場した。予選より周りの選手が速く前半から置いていかれた中で、どれだけ持ち味の後半追い上げを発揮できるかという状況となった。その中で2本目の疲れからか歩数のミスがあり、リズムが乱れて追い上げが叶わず8位。得点はならなかった。しかし、ゴール後の悔しがる様子は今後の成長を感じさせた。(田淵)

#### 男子 4×100mR

[決勝]

4位 京都大学 41.61

山田(2)-室(4)-吉田(4)-長田(2)

男子 4×100mR 決勝には山田(2)→室(4)→吉田(4)→長田(2)の走順で出場した。山田→室のバトンパスは少し詰まり、スムーズなバトンパスができなかった。室→吉田のバトンパスは大きく詰まった。吉田→長田のバトンパスは上手く噛み合わず、長田が十分な加速をすることができなかった。長田は東北大の追い上げから逃げきったが目標の3位には後一步届かなかった。(石原一)

#### 男子 4×400mR

[決勝]

5位 京都大学 3'22"33

益田(2)-藤浦(3)-角谷(3)-岩本(2)

男子 4×400mリレー決勝は、1走益田、2走藤浦、3走角谷、4走岩本のオーダーで臨んだ。1走の益田は、スタートからやや出遅れ、後半も思うようにスピードに乗れず後方でバトンを渡す。2走の藤浦は、前を追って前半から飛ばしたが、後半かわされて最下位に転落。3走の角谷は、すぐさま4位集団に追いつくも、ラストで離され6位でアンカーへ。4走の岩本は、じわじわと5位との差を詰めていき、ラスト100mで5位に浮上してそのままゴール。全体的な疲労感が拭えなかったレースなだけに、来年は個々の走力に加えて本数耐性もつけ、上位を狙ってほしい。(山田慎)

## 女子 100m

### [予選]

1組 齋藤虹(1) 13"37(-2.9) 4着

2組 三好(3) 12"71(-1.9) 2着 Q

女子100m 予選には齋藤虹(1)と三好(3)が出場した。齋藤は入部して間もないが軽快な走りを見せ、PB からは少し遠いが向かい風ながら 13"37 という好記録をマークした。まだ1年生であるので今後の成長が見込め、これからの京大女子黄金時代の中核となることが期待される。三好は向かい風にも関わらず自己ベストを更新し、関カレ A 標準に迫る 12"71 という好タイムを記録した。4レーンには資格記録上では三好を上回る大阪大の大岡(3)が出場していたが、彼女を抑え見事2位につけて決勝進出を着順で決めた。(岡田)

### [決勝]

3位 三好(3) 12"79(-0.5)

女子 100m 決勝には三好(3)が出場した。

最初の資格記録上では 5 位であり得点ラインまであと一步のところであったが、決勝でも予選と同様に安定感のある走りを見せ PB に近いタイムを記録し、得点予想を返して見事 3 着に付けた。結果 2 点を獲得し、女子の優勝争いに大きく貢献した。進化を続ける次期女子主将の来年の活躍に期待である。(岡田)

## 女子 400m

### [予選]

1組 中野直子(2)64"30

2組 平松藍(1)68"11

女子 400m 予選には、中野(2)、平松(1)の 2 名が出場した。2 人とも大学初の 400m のレースということもあり、新鮮な気持ちと緊張感を合わせもってレースに臨んだ。中野は、周りを気にすることなく自分のペースに持ち込み、250m あたりまで安定したピッチで通過したが、終盤にかけて大きく失速した。平松は、他選手が全員 61 秒以内にゴールするなど、序盤から内側の選手たちに抜かれることになってしまったが、最後まで粘り強く駆け抜けた。本大会では両者ともに決勝進出には届かなかったが、今後は PB

更新、そして来年の得点を目指す。(山崎)

## 女子 100mH

### [決勝]

2 位 小西菜月(4) 15.44(-1.5)

6 位 新保歩(2) 16.82(-1.5)

女子 100mH には小西(4)、新保(2)の 2 名が出場した。2 組でのタイムレース決勝の予定であったが棄権者のため、1 組だけでの出走となった。

レースでは 15 秒前半の資格記録を持つ小西、名古屋大の坂口(2)、東北大の山崎(4)がスタートから抜け出す展開に。小西、坂口が競り合ってトップを走るも、7 台目あたりからじわじわと差を離されて小西は 2 位入賞となった。

新保は得点には約 0.5 秒届かなかったものの、最後まで前を走る選手を必死に追う力走を見せた。

1.5m の向かい風でかつ、京大の両選手とも多種目出場という厳しい条件ではあったが、それを感じさせない力強いレースだった。(青柳)

## 女子 4×100mR

### [決勝]

5 位 50"48

森尾(3)-齋藤虹(1)-三好(3)-齋藤あ(2)

女子 4×100m リレー決勝は、1走森尾、2走齋藤虹香、3走三好、4走齋藤あおぼのオーダーで臨んだ。1走の森尾は、スタートで出遅れたものの、中盤以降は粘りの走りを見せる。2走の齋藤虹香は、他大のエース格に押され、順位を落としてバトンを渡す。3走の三好は、得意のカーブで上位との差を詰め、表彰台も狙える位置でアンカーへ。4走の齋藤あおぼは、前半はスピードに乗るも、後半追い上げられ5位でフィニッシュ。まだまだレベルアップが図れるチームであるから、来年の表彰台、そして蒼穹記録の更新に期待がかかる。(山田慎)

～中距離～

## 男子 800m

### [予選]

1組 西川洸平(2) 1:57.36 2 着 Q

2組 平山悦章(2) 1:58.83 5着

3組 山田大智(4) 1:58.47 5着

男子800m予選には西川(2)、平山(2)、山田(4)の3名が出場した。3組とも予想通り事前ランキング上位の選手が引っ張る展開となった。西川に関しては、レース序盤から先頭のペースアップに対応可能な位置につけており、600m以降も先頭に着き、最後は余裕をもって2着でゴールできた。平山に関しては、前半は二番手の良い位置でレースを展開し、いつでも仕掛けられる体勢にはあったが、ラスト200mから持ち前のラストスパートを発揮できず5着でゴールし、本人にとって悔いの残るレースとなった。山田に関しては、当日含め、レース前までの調子が良かっただけにラストスパートで競り負けたという印象が残る悔しいレースとなったが、事前ランキングで劣勢にありつつも積極的に前方でレースを運ぶ姿にはパートチーフとしての意地が感じられた。(白星)

[決勝]

6位 西川洸平(2) 1'56'38

男子 800m 決勝には西川(2)が出場した。レースは当初、越野(東大 2)が引っ張る展開となり、隊列は長く伸びた。西川は中段に位置を取り、400m を56"5 で通過して堅実な走りを見せる。そのままレースは後半に突入。500m 地点で西川が隊列前方へ出ようとするにそれに対応した資格記録 1 位、北岸(東大 3)が西川を追い越す形で集団のトップへ躍り出て、西川はそれを追いかける形となり、第 3 コーナー付近で北岸とは離れるも 2 番手の位置。しかし第 4 コーナーからホームストレートにかけて後方から追ってきた大塚(東北大 2)や千葉(東北大 4)、宮瀬(北大 4)らに競り負け 6 着となり、悔しい結果となった。300m 地点から果敢に攻めた西川に対し、ロングスパートを控えた他選手らの戦略勝ちともいえるかもしれないが、決勝に 1 人しか送ることができず、結果として得点源となることができなかつたこと、また決勝レースの中での選択肢を広げることができなかつたことを中距離パート全体で受け止め、認識を新たに実力の向上に努めなければならない。(平山)

男子 1500m

[決勝]

13 位 西川洸平(2) 4'06'89

14 位 川口修大(4) 4'06'97

17 位 小井稜真(2) 4'11'21

男子1500m 決勝には川口(4)西川(2)小井(2)が出場した。上位6名の資格記録はシーズンベストであり、激しい優勝争いが予想された。小井、川口は共に後方からのスタートとなり苦しい展開が続いた。どちらも足は動いており後半勝負となった。西川は3分代を持つ選手であり、前半から4番手で走る良い位置取りを見せ、後半次第では得点を期待できた。後半になり、小井が粘ることができず、川口が順位をあげる展開をみせた。西川は先頭のペースアップについて行くことが出来ず、辛い後半になった。最終的に川口と西川はほぼ同着でフィニッシュし、その少し後で小井が走り終えた。調子の良い上位勢の底知れない力を見せつけられ、更なるレベルアップが必要と感じられるレースとなった。(奥村)

女子 3000m

[決勝]

3 着 石原優花(1) 10:22.84

10 着 周藤紗季(2) 11:27.55

女子 3000m 決勝には周藤(2)石原(1)が出場した。石原は大学初レースであったが、スタート直後から先頭についていき、残り1000mで濱田(阪大)、佐藤(名大)に離されたものの、3着でゴールした。気温も上昇しており過酷な条件でありながら、自己ベストから3秒の遅れでまとめ、完璧なレースだった。周藤は第7位集団からレースを進め、一時前を引っ張る積極性も見せたが、終盤失速し10着でゴール。ただ昨年から目覚ましい成長を遂げており、今後の活躍が期待される。(小坂)

～長距離～

男子 5000m

[決勝]

15 位 江端康汰(3) 16:02.81

18 位 三嶋友貴(2) 16:34.02

20位 宮澤知希(3) 16:40.15

男子 5000m には江端(3)、宮澤(3)、三嶋(2)が出場した。出走選手の半数近くが14分台の記録を持つことに加え、苛酷な暑さの中での難しいレースとなった。江端(3)は先頭集団でスタートするも、1000mを3分08秒で通過した後のペースアップに対応できず失速した。宮澤(3)、三嶋(2)は失速を避けるため後方から走り出す。粘りの走りを見せたが単独走になると徐々にペースを落とした。出場した3選手ともに対校戦経験が浅く、まだまだ成長途上にある。今後の大きな成長と活躍に期待したい。(足立)

### 男子3000mSC

[決勝]

11位 梅原(2) 10:13.60 自己新

20位 斎藤(2) 11:08.69

21位 松岡(4) 11:11.55

男子 3000mSC 決勝には松岡(4)梅原(2)斎藤(2)が出場した。京大の3選手は後方からのスタートとなった。梅原は冷静に自分のペースを守り、徐々に順位を上げて、1000m 付近で 10 位集団に落ち着いた。ラストこそ他大学の選手のスパートに対応できなかったものの、自身初の七大戦で自己ベストを更新する走りを見せた。斎藤と松岡は終始単独走を強いられる苦しい展開となった。斎藤は序盤、中盤となかなかペースを上げることができなかったが、ラスト1周で意地のスパートを見せて 20 位でゴールした。松岡は終盤、脱水症状に見舞われ、大きくペースを落としてしまう苦しい走りとなったが、気持ちを切らさず前を追い続け、最後の七大戦で力を出し尽くした。優勝争いは奥村(北大)、小川(名大)、瀬川(東大)を中心に繰り広げられ、終始冷静な対応を見せた小川(名大)が鋭いラストスパートを炸裂させ、実力通り勝ち切った。(柴田)

～競歩～

### 男子5000mW

[決勝]

6位 尾原翔(3) 23:17.93

7位 原圭佑(3) 23:24.27

8位 池田尚平(4) 23:47.96

男子 5000mW 決勝には池田(4)尾原(3)原(3)が出場した。9:30スタートだったが気温は33.0℃で日照りも強く、過酷なレースが予想された。スタート直後から大島(名大)が飛び出し、京大3人は第2集団でレースを進めた。しかし、中盤から名古屋大の2人が抜け出し、京大3人は得点ライン付近でレースを進める展開となった。その中でも尾原が粘りきり6位を死守、原は2回目の競歩の試合で大幅に自己ベストを更新したが、得点にはあとわずか届かなかった。池田は集団の先頭を引っ張るなど積極的に進めた

～跳躍～

### 男子走高跳

[決勝]

1位 山中駿(2) 2m22 自己新

2位 鴛原泰輝(3) 1m96

6位 田中颯真(1) 1m85

男子走高跳には鴛原(3)、山中(2)、田中(1)が出場した。鴛原は失敗した試技は多かったものの、持ち前の修正力でセカンドベストの 1m96 まで跳び切った。山中は 1m93 から試技を開始し、自己新記録となる 2m22 まで全て 1 回でクリアし、大会新記録を更新した。田中は自己記録の 1m85 をバーに当たりながらも 1 回でクリアし、試技数で 6 位に滑り込んだ。(坂本)

### 男子棒高跳

[決勝]

5位 今西 直(4) 3m80

7位 深井 颯一郎(2) 3m60

11位 吉富 文暁(1) 2m80

男子棒高跳には今西(4)、深井(2)、吉富(1)が出場した。

吉富は 2m60 からスタート。バーを意識してしまい少しポールが進みが悪かったが、アップライトを引いて合わせ、3 回目でクリアした。2m80 では動きが良くなり、2 回目で、体が触れたもののうまくバーが残りクリア。3m00 は高さが足りずクリアできなかった

たが、大学から始めた棒高跳の初試合でしっかりと記録を残すことができた。まだ始めて間もなく伸びしろが大きいので、ここからの進化が楽しみである。

深井は、3m20 は1回目、3m40 は2回目、3m60 は1回目と順調にクリア。3m80 は、1回目でかなり流れたためポールを上げたが、2回目は風が悪くポールが進まず失敗。3回目は、高さは出ていたものの、ターンに入ることができず、クリアできなかった。練習でできていた空中動作が発揮しきれず、悔しい結果となったが、試合経験を積んで今後大きく飛躍することに期待が高まる。

多種目出場の今西は公式練習をパスしたが、本番1本目の3m20 は余裕を持ってきっちり1回目でクリア。続く3m40、3m60 も1回目で順調にクリア。跳ぶ度にパフォーマンスが高くなり、PBである3m80 では、2回目でポールを上げ、さらに引いたアップライトを戻し、見事に噛み合わせてクリアした。4m00 ではさらにポールを上げ、良いパフォーマンスができたが、惜しくもクリアはならなかった。しかし、5等タイとなり貴重な1.5点を獲得し、4回生の意地を見せつけた。(黒川)

#### 男子走幅跳

[決勝]

1位 高橋 昂生(1) 7m25(+1.9)

5位 梶 慎介(3) 6m97(+2.7)

7位 齋藤 啓(3) 6m81(+0.6)

男子走幅跳には高橋(1)、齋藤(3)、梶(3)の3人が出場した。高橋は持ち前のスピードを活かして2本目に7m25を記録し、他を寄せ付けぬまま優勝を飾った。齋藤は1本目、2本目とファールが続いたが、追い込まれた3本目で6m81を記録した。しかし、4本目以降は記録を伸ばすことができず、7位となった。梶は2本目に6m97を記録し、4本目以降は攻めの跳躍をおこなったが、惜しくもファールが続いてしまい、5位となった。(松井)

#### 男子三段跳

[決勝]

1位 梶 慎介(3) 15m38(+1.6)

2位 齋藤 啓(3) 14m30(+2.3)

7位 山中 駿(2) 14m15(+0.6)

男子三段跳には山中(2)、齋藤(3)、梶(3)の3人が出場した。山中は高跳びで培ったバネをうまく利用し、2本目に14m15を記録した。しかし、その後は足がなかなか合わず7位で競技を終えた。齋藤は1本目に14m21、2本目に14m30と着実に記録を伸ばした。他校の選手がじわじわと齋藤に迫りくるような試合であったが最後まで2位の座を守り切った。梶は1本目に14m95を記録した後、4本目に15m23、そして6本目に15m38と会場を盛り上げる跳躍で記録を伸ばし、優勝を掴んだ。(松井)

#### 女子走高跳

[決勝]

女子走高跳には小西(4)が出場した。

当日の練習で1m50を楽に跳べ、1m50からスタートした。バーは1m60まで5cm刻みで上がり、その後は3cm刻みで上がった。

今季に入ってから1m66までは跳べており、その高さまでは難なく成功させた。自身の身長を超える1m69は跳んだことがなかったが、1回目を修正して2回目で見事クリアした。名古屋大学の選手1人も1m69を成功させており、また1m70を超えると全カレB標準突破の期待もかかり緊張していたと思われる。3cm刻みのルールから1m69の次が1m72となり、自己新の1m66から6cmも高いことから成功は厳しいと思われた。しかし、3本目は跳べそうという自信を持って挑戦し、見事クリアした。名古屋大学の選手は成功ならず、次の競技のことと全カレ標準切り達成、優勝確定で1m75は跳ばずに終わった。名古屋大学の2選手に勝ち切り、自己新、全カレ標準突破、京大新、大会新という結果で京大を盛り上げた。(平岡)

#### 女子走幅跳

[決勝]

9位 新保歩(2) 4m46

10位 小西菜月(4) 4m20

女子走り幅跳びには小西(4)、新保(2)の2人が出

場した。小西は走り高跳びの競技直後の出場となった。疲労もあってか思うように自分の実力を発揮することが出来なかった。1本目と3本目は着地で足が乱れてしまい惜しい跳躍となった。新保は助走のスピードは出ていたが踏切が思うように行かず4m46でセカンド記録3cmの差でトップエイトを逃す悔しい結果となった。踏切に対する課題を克服し、さらなる活躍を期待したい。両者とも多種目出場となった中で、健闘を見せてくれた。(大住)

～投擲～

### 男子砲丸投

[決勝]

1位 眞鍋 聡志(4) 12m67

11位 今西 直(4) 8m73

15位 安藤 正貴(2) 7m91

男子砲丸投には安藤(2)、今西(4)、眞鍋(4)が出場した。安藤(2)は、1投目は7m84、2投目は7m91と立て続けにPBを更新した。3投目は記録を伸ばせなかったが、連続のPB更新によって投擲力の向上を示した。今西(4)は、1投目は8m64であった。2投目は力んでしまったためか8m39と記録を伸ばせなかった。3投目は8m73と記録を伸ばしたが、トップエイトには残れず11位で競技を終えた。眞鍋(4)は、1投目は確実に4投目以降に進出できる11m27を記録した。リリースの感覚を確認し臨んだ4投目は12m67を記録し、暫定1位となった。5投目は砲丸の軌道がやや低くなり12m62、6投目はファウルと記録は伸ばせなかったが、1位を守り抜いた。事前ランキングにおいて格上である名大の中村(4)が不調の中、実力を発揮し、去年のリベンジを果たした。(川瀬)

### 男子円盤投

[決勝]

3位 眞鍋聡志(4) 37m04

7位 安藤正貴(2) 30m19

10位 岡本亜哲(2) 26m66

男子円盤投には岡本(2)、安藤(2)、眞鍋(4)が出場した。岡本は1投目から自己新記録を更新する26m66の好投を見せるも、その後記録が伸びず、決勝進出ラインの28m81には惜しくも届かなかった。安藤も2投目に自己新記録を更新する30m19の好投を見せ、トップエイトに進むも、その後は記録が伸びず、惜しくも7位にとどまった。眞鍋は1投目2投目ともにファウルとなってしまい、苦しい状況だったが、3投目でしっかりとトップエイト進出を決めた。その後、5投目で37m04を記録し、3位で競技を終えた。今大会3種目目ということもあり疲れが見えたが、ハンマー投げ4位、砲丸投げ1位の結果も含め、主将としてこれ以上ない結果を残したと言えるのではないかと。(杉原)

### 男子ハンマー投

[決勝]

4位 眞鍋聡志(4) 30m96

6位 岡本亜哲(2) 20m98

9位 安藤正貴(2) 19m91

男子ハンマー投げには眞鍋(4)、安藤(2)、岡本(2)が出場した。眞鍋、岡本は1投目、安藤は2投目で自己ベストを更新し、序盤から勢いに乗った。続く3投目、眞鍋、岡本は更に記録を伸ばし、それぞれ4位、6位でエイト進出を決めた。安藤も自己ベストの2投目に近い記録を残し、安定感を見せたものの、9位とあと一步のところまでトップエイトを逃した。以降眞鍋、岡本は3投目の記録を更新するには至らなかったものの、そのままの順位をキープし競技を終えた。昨年の自己ベストから記録を伸ばし、ランキングを守り得点し、初日からチームに勢いを与えた。(橋本)

### 男子やり投

[決勝]

男子やり投には今西(4)、眞鍋(4)、岡本(2)が出場した。眞鍋は練習投擲から気分が乗っており、1投目でPBを更新した。それに続き、今西も2投目でSBを更新した。岡本も力強い投擲をするも、記録がそこまで伸びなかった。眞鍋は2投目で記録を1cm

伸ばすも、3 回目は少しかんだように見えてそのまま競技が終了した。終始競技を楽しんでいるようだった。今西は 3 回目に記録を 1m 伸ばすも、エイトラインには届かず競技が終了した。岡本は多種目出場の疲労があるなか、最後まで力強い投げをしていた。ハンマー投とは違い、落ち着いた投げができていた。エイトラインは 50m を超えてくるため、これからさらに力をつけていく必要がある。(中芝)

#### 女子砲丸投

[決勝]

2等 篠田佳奈(2) 10m20

3等 小西菜月(4) 9m84

女子砲丸投には小西(4)、篠田(2)が出場した。篠田は 1 投目から資格記録の 8m34 を大幅に上回る 10m 台をマークした。2 投目以降も順調に記録を伸ばし、3 投目と 5 投目に 10m20 を記録して 2 等。

小西(4)は出場選手の中で 2 位の資格記録を持っており、序盤から順調に記録を伸ばし続け、3 投目に 9m84 をマーク。そのまま譲らず 3 等となった。この競技で京大は 5 点を獲得した。(平山)

#### 女子やり投

[決勝]

1等 篠田佳奈(2) 50m41

2等 小西菜月(4) 32m61

女子やり投には小西(4)、篠田(2)が出場した。篠田は事前ランキングで大幅な差をつけて首位に立っており、3 本終了時点で 1 位。5 本目で 50m41 をマークして、関西チャンピオンの余裕を見せつけながら優勝を果たした。小西(4)は 1 本目で 31m22 をマークし、そのまま 2 位を保持して 4 本目には 32m61 を記録。順位を維持したまま 2 等となった。この競技で京大は 7 点を獲得した。(平山)

#### ④同志社戦結果(得点)

第 92 回同志社大学・京都大学対校陸上競技大会

2022 年 8 月 14 日

太陽が丘

##### トラック

	100m	200m	400m	800m	1500m	5000m	110mH	400mH	4×100mR	4×400mR	合計
同志社	5	5	5	6	6	6	5	3	3	3	47
京大	1	1	1	0	0	0	1	3	1	1	9

##### フィールド

	走高跳	棒高跳	走幅跳	三段跳	円盤投	砲丸投	ハンマー投	やり投	合計
同志社	1	3	5	4	6	5	5	6	35
京大	5	3	1	2	0	1	1	0	13

同志社 82点

京大 22点

上記のように、第 92 回同志社大学・京都大学対校陸上競技大会は同志社大学が優勝しました。  
くわしい競技結果はホームページ( [京都大学陸上競技部 \(kyoto-u.ac.jp\)](http://kyoto-u.ac.jp) )をご確認ください。

⑥ その他ご報告

七大戦および同志社戦にお越しくださったOB、OGの皆様の名簿を以下に掲載いたします。猛暑の中、足を運んでくださりありがとうございました。また、お越しいただいたにも関わらずお名前を頂戴することができなかった方にはこの場を借りてお詫び申し上げます。

[七大戦]

藤原忠義 S.41  
森本正幸 S.41  
池本忠司 S.49  
池田康博 S.51  
桂総一郎 S.51  
重村充男 S.54  
三好稔彦 S.54  
熊谷元 S.59  
沢田和昌 S.60  
山瀬康平 H.23  
山瀬憲代 H.25  
眞武俊輔 H.25  
長谷川聡 H.25  
堀田孝 H.25  
矢澤学 H.25  
柴田裕平 H.30  
浅野智司 H.30  
谷口博紀 H.31  
五十嵐隆皓 H.31  
平田泰行 R.1

広川知佳 R.2  
水野廣也 R.2  
川端将貴 R.2  
後藤加奈 R.2  
三谷圭 R.2  
田中智也 R.2  
土屋維智彦 R.2  
谷川開希 R.2  
西脇友哉 R.2  
小野貴裕 R.2  
松井そら R.2  
西川真悠 R.4  
奥村夏子 R.4  
(敬称略、卒部年度順)

[同志社戦]

桂総一郎 S.51  
三好稔彦 S.54  
熊谷元 S.59  
(敬称略、卒部年度順)



---

蒼穹ニュース 令和4年度 第5号  
令和4年 8月25日発行

---

発行所:京都大学体育会陸上競技部  
編集者:紀之定玲司・平山悦章・益田椋多(副務)  
特別協力:高重広・平林里和子・高山兼輔(学連員)  
写真担当:五十嵐聖・松本良平・三嶋友貴(写真係)

---

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>  
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>  
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>  
メールアドレス [hiryama.yoshiaki.33c@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:hiryama.yoshiaki.33c@st.kyoto-u.ac.jp) (平山)

